

カレッジ通信

智辯学園奈良カレッジ小学部  
令和3年度 1月号  
令和4年1月15日 発行



明けましておめでとうございます。保護者の皆様には、新春を清々しい気持ちでお迎えのこととお慶び申し上げます。また、去年は多くのお力添えをいただき誠にありがとうございました。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

さて、本校では、1月11日に始業式を行い、いよいよ令和3年度の3学期が始まりました。児童たちが元気に登校してくれたことを心よりうれしく思いました。始業式では、どの児童もマスクはしていても希望に満ちた瞳で式辞を聞いていました。児童たちは、それぞれが「今年の目標」を立て、一年のスタートをしてくれたことと思います。各自が目標を達成できるように、教職員一同、児童たちを支え励ましていきたいと思ひます。

3学期は、各学年がその学年の最後の仕上げをし、次の学年への準備をする大切な学期です。世間では新型コロナウイルスに感染する人が次第に増えている状況ではありますが、児童たちには、感染対策をしっかりと行って、充実した学校生活を送ってもらいたいと願っています。何よりも、現在のクラスは3月で終わり、4月になると新しいクラスになります。同じクラスになったのも何かの縁と考え、3学期が終わった時に、「いいクラスだったね。みんなありがとう」と児童同士が言い合えるように、教職員も一緒に、残された日々を惜しみながら過ごしたいと考えています。

最後になりましたが、本校では昨年に引き続き、新型コロナウイルス感染防止対策を徹底しながら、教育活動を継続してまいります。保護者の皆様にもお子様の健康観察や朝の検温等、何かとご苦勞をおかけしますが、なにとぞご協力くださいますようよろしくお願い申し上げます。

1～2月の学校行事

月	日	曜	行 事	月	日	曜	行 事
1	16	日	6年実力テスト(6年のみ登校)	2	1	火	
	17	月			2	水	
	18	火			3	木	
	19	水	1/16の振替休日		4	金	4限授業(昼食後下校)
	20	木			5	土	2次入試(家庭学習日)
	21	金	いじめアンケート・地域別説明会(橿原)		6	日	
	22	土			7	月	
	23	日			8	火	
	24	月			9	水	
	25	火	中学部進学手続き(第1回)		10	木	
2	26	水		3	11	金	建国記念の日
	27	木	小学部入学手続(第2回)		12	土	週休日
	28	金	地域別説明会(羽曳野)		13	日	家庭学習日(高等部卒業式のため)
	29	土			14	月	2/13の振替休日
	30	日			15	火	2次入試合格者入学手続
	31	月			16	水	

コンクール受賞者発表

児童の作品が、各コンクールで受賞しました。誠にありがとうございます。

第65回全国学芸サイエンスコンクール

社会科自由研究部門  
旺文社赤尾好夫記念賞(入選)  
5年1組 鈴木 ともか(すずき ともか)  
「お墓の歴史調査」  
5年2組 藤田 清音(ふじた さやね)  
「幻の五新鉄道」

作文/小論文部門  
旺文社赤尾好夫記念賞(入選)  
6年1組 岡野 高顕(おかの たかあき)  
「三人兄弟の三番目は損なのか」

第67回青少年読書感想文奈良県コンクール

佳作  
1年2組 森田 翔月(もりた かづき)  
「そのときがくるくるをよんで」

第34回国際平和ポスターコンテスト

地区リジョンチェアパーソン賞  
6年1組 丸岡 幸真(まるおか ゆきまさ)  
地区努力賞  
6年2組 上野 かれん(うえの かれん)  
入選  
6年1組 鶴飼 咲良(うかい さら) 上野あんな(うえの あんな)  
6年2組 西谷 碧人(にししたに あおと)  
佳作  
6年2組 伊丹 尚太郎(いたみ しょうたろう) 谷野 日香(たにの はるか)  
5年1組 森本 耕太(もりもと こうた)  
5年2組 原田 実子(はらだ みこ) 前田 桃歌(まえだ ももか)

3年生 白菜の収穫

12月15日(水)に3年生が白菜を収穫しました。9月から一生懸命育ててきた結果、思っていた以上に大きな白菜が収穫できて、児童たちは驚き、大満足の様子でした。



4年生 社会見学

12月16日(木)に4年生が「やまとクリーンパーク」に社会見学に行きました。ごみ処理や熱回収、リサイクル方法などの説明を聞いて、実際に働いている方々の仕事の様子を見学しました。見学を通して、児童たちの「ゴミの分別」や「3R運動による資源の有効活用」に対する意識も高まったと思います。



## コンクール受賞作品紹介

第71回全国小・中学校作文コンクール奈良県審査で優秀賞を受賞した5年1組鈴木ともかさんと、令和3年度少年の主張（香芝市）で優秀賞を受賞した5年2組前田桃歌さんの作品をご紹介します。

### 「多様性」を認めるということ

5年1組 鈴木 ともか

今年の夏は、ふだんテレビを見ることが少ない私の家でも、オリンピックをよく見ていました。私も時間がある時には、色んなスポーツの試合を見て、テレビの前で一生懸命選手を応援していました。

そんなオリンピックでしたが大会期間中に私にとって聞きなれない「多様性」という言葉を何度も耳にしていた、それがずっと気になっていました。

「多様性」という言葉を国語辞典で調べると、「色々な種類や傾向のものがあること。変化に富むこと。」と書いてあります。英語では「ダイバーシティ」というそうです。何だかこれではまだ意味が分からないので、インターネットで色々調べてみると、様々なことが書いてありました。それを私なりに解しゃくしてまとめてみました。

一、人の性別・国籍・人種・年齢など様々な違いを理解し、それを認めること。

二、目に見えない人の価値観や考え方、宗教などを理解し、それを認めること。

一については、オリンピックを見て理解することができました。オリンピックには世界中から色々な国の選手が参加していました。顔のふんいき、肌の色、体つき、話す言葉、年齢と、本当に様々な人たちが参加していました。そのような人達がスポーツではみんなが平等に試合をしていました。

日本の国の中で生活しているとあまり感じませんが、世界中には見た目だけでも全く様子が異なる人達がいます。このような自分とは違う人達と接するときは、その人達を拒否するのではなく、まず認めることから始めなければならないという事です。

私の学校生活でも同じで、肌の色が少し黒かったり、髪が短かったり、背が低かったり、身体が大きかったり、眼鏡をかけていたり、見た目で違いのある色々な人達がいます。これらの友達を、自分の好みや思いこみだけで判断したり、拒絶してはいけないということです。

二については目に見えるものではないので分かりにくいのですが、私にとっての当たり前の考えや行動が、他の人にとっての当たり前ではないかもしれないということです。先日読んだ本に、面白いことが書いてありました。日本人は、食事をした後にすぐげっぷをすることは、一緒に食事をしている人にとっても失礼でマナー違反であるという認識ですが、世界中が全く同じ認識ではないということです。ある国では逆に、食事の後にげっぷをしない方がマナー違反だと思われるのだそうです。それはなぜかという、げっぷはお腹いっぱいになることが出来たという意味をあらわし、とても美味しい料理であったことを示すのだそうです。なのでげっぷをしないということは、そのお料理に満足をしていないことを表すのだそうです。

もしこの国の人と一緒に食事をして、その人がげっぷをしたら、私は間違いなく「この人は失礼だ」としか思わなかったでしょう。しかし、相手の国の考え方やマナーを理解していくことで、相手の行動を受け入れることができるのだと思います。

こうしてダイバーシティの考え方を見ていくと、一つの固定観念にとらわれずに、その時の状況に合わせて色々な考え方や行動をする事の重要性を感じました。

例えば、このコロナウィルスのせいで、去年はオンラインで学校の授業がありました。これまでの授業は、必ず学校に行かなければならなかったのが、オンラインでの授業も取り入れられました。私のピアノのレッスンもオンライン授業となりました。従妹の大学生のお姉さんはオンラインで調理実習の授業があったそうです。お父さんやお母さんの仕事もオンラインで在宅ワークとなりました。

このようにして、コロナ以前には考えられなかったことが、新しい発想や仕組みとして取り入れられました。今までのあり方や考え方からだけで全てを判断せず、状況に応じて多様に考えて行動することもダイバーシティの考え方なのだと思います。

コロナウィルスは人間の健康をこわし、そして命をうばっていくこわい存在であって、何一つ良いことはないと思っていました。しかし前向きに考えると、オリンピックの開催と共に、私はこのダイバーシティの考え方を学ぶことができました。

まだまだ私にとっては難しいダイバーシティですが、世界中の人々が平等に過ごしていくための考え方がダイバーシティの原点であることを理解しました。そして私がすぐにできることは、まず相手を受け入れ認めること。これからは、まず自分で出来ることを実践しながら、ダイバーシティについての考え方を深めていこうと思います。

### 人とのつながり

5年2組 前田 桃歌

世界中で新型コロナウイルスが流行し、それまで当たり前のようにできていた生活ができなくなっています。緊急事態宣言やまん延防止で県をまたいでの往來を自しゆくするよう連日テレビやインターネットで見る日々。人と会うことを制限される日々が続くことによって、私は人とのつながりに変化が生まれてきているように感じています。例えば、今本当に会う必要があるのかと考えるようになった人もいるのではないのでしょうか。

人とのつながりが減ることでプラス面に働くことを考えてみました。仕事上の付き合いで、仕事後に行われる会食。これが中止になる場合、人とのつながりは減ってもストレスは減るという意味で、プラスに考えられる気がします。ですが私は、会いたい人に気軽に会えないことによって生じるマイナス面の方がはるかに大きいと思います。

私の父は一年に数回、父から見て祖母、私にとって曾祖母に会いに行っていました。曾祖母は山口県の老人ホームにいました。しかし、コロナウィルスの感染が広がると、老人ホームに入れなくなってしまいました。曾祖母が高齢という事、そして私たちの方が人口の多い所にいるということもあり、父は会いに行くことを延期せざるをえませんでした。そんな中、曾祖母が亡くなってしまいました。父は、最近会えなかったことをとても悲しんでいました。会いたくても会えない、その中で、大切なつながりがコロナウィルスによって遠ざけられたまま、切れてしまったのです。

このようなつながりの消失は、多く起きているのではないかと思います。また、人とのつながりを新しく形成しにくくなっているようにも感じます。密を避けるために、複数学年との縦割りの活動が出来なかったり、そもそも学校に行けなかったりすることで、人と接する時間が少なくなっているからです。

私は、いろいろな人とコミュニケーションをとることが好きです。人と会って話すことによって、ぬくもりを感じ、空気を感じ、お互いの事を考えながら接することで、よりその人とのつながりを実感することができるようからです。その積み重ねから、信頼や安心が生まれるのではないのでしょうか。インターネットを通じ、リモートでコミュニケーションをとることも、感染対策を考えると必要であり、これからの交流方法の一つとして必要であることはわかります。ただ、直接会って触れ合わなければわからないのが人なのではないのでしょうか。「人」という字は二画で支え合っているその字の通り、近くで相対することが大事だと今、特に強く感じます。

コロナウィルスの感染が落ち着けば、今まで以上に様々な人と直接会えることの大切さを感じながら、たくさんの人と交流を持ちたいと思います。その日が一日も早く来ることを願ってやみません。